



(株) マーキュリアホールディングス

2021年12月期第2四半期 決算説明会

Mercuria Investment Group

証券コード：7347

2021年8月26日

(ご注意) 本資料に記載された事項は、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではありません。また、今後予告なしに変更されることがあります。本資料に含まれる意見や予測などについては、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご留意下さい。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が運用するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。本資料は当社の著作物であり、著作権法により保護されており、また、本資料及び本資料の内容を、当社の許可なく、第三者に開示又は漏洩することはできません。なお、本資料内の数値は全て連結ベースにて表示しております。

マーキュリアインベストメントグループの経営理念とミッション

■ 三つの経営理念

クロスボーダー（国の壁、心の壁、世代の壁を超えて）
～Cross Border～

世界に冠たる投資グループへ
～Global Reach～

5年後の常識
～Undiscovered Common～

■ ミッション

“ファンドの力で、
日本の今を変える”

目次

1. 投資戦略及びファンドの状況
2. 2021年12月期第2四半期 決算ハイライト
3. これからのマーキュリアインベストメントグループ
4. 損益構造と事業別損益(参考資料)

1. 投資戦略及びファンドの状況

マーキュリアの投資領域と投資戦略

- 当社グループは、「クロスボーダー」を基本コンセプトに、国境や既成概念などの枠を超えることで広がるビジネスチャンスに着目し成長が期待できる事業や高い収益性が見込める資産に対する投資を行います。
- いずれの戦略においても当社グループは品質ある投資管理にコミットしています。

投資領域

事業投資



- 成長ステージや承継ステージに位置する企業などのエクイティ・ホルダーとなり、経営陣と共に事業成長や将来を考えて企業価値の向上を図ることで、投資家のリターンを高めます。
- 投資戦略:
成長投資／バイアウト・承継投資／バリュー投資

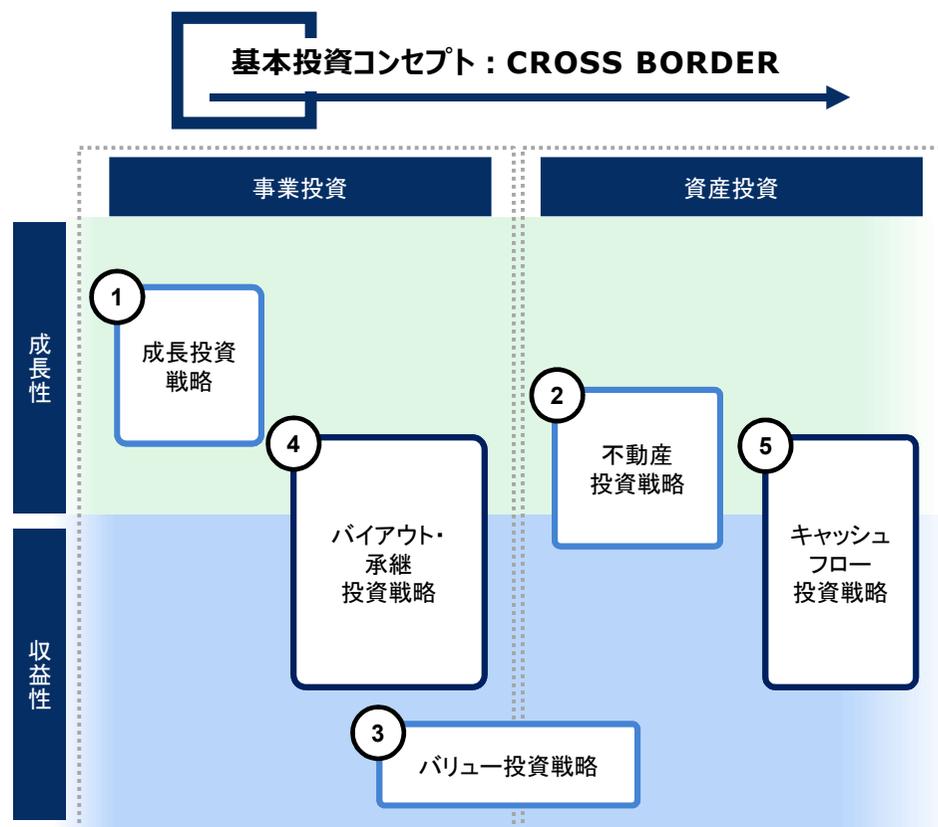
資産投資



- 物が使用される対価として支払われるキャッシュフローに着目し、それを確実に受け取ることができる体制を構築し、金融商品とすることで、投資家に安定的なリターンを提供します。
- 投資戦略:
不動産／航空機リース・インフラファンド等のキャッシュフロー投資／バリュー投資

投資戦略

基本投資コンセプト：CROSS BORDER



当社グループの投資実績(一部抜粋)

事業投資

1 成長投資戦略

国内



ライフネット生命保険
(東証マザーズ上場)



ミンカブ・ジ・インフォノイド
(東証マザーズ上場)



ビットキー
(未上場)

ほけんの窓口
(EXIT済)



ループ
(未上場)



PIAZZA
(未上場)



Rapyuta Robotics
(未上場)



Room Clip
(未上場)

海外



Nippon Wealth Limited,
a Restricted Licence Bank
NWB
Nippon Wealth Limited
(未上場)



Propy
(未上場)

STELLAR WORKS



Stellarworks Holdings
Limited(未上場)

Thunip Holdings
(EXIT済)

4

バイアウト・承継投資戦略



泉精器製作所
(EXIT済)



ツノダ
(EXIT済)



水谷産業
株式会社
水谷産業
(未上場)



イーテック物流
(未上場)



東京電解
(未上場)

べんてる
(EXIT済)

マーク電子
(未上場)

資産投資

2 不動産投資戦略

China
Central
Place
华贸中心

Spring REIT
(香港証券取引所)



3

バリュー投資戦略

Project SWEEP, Project CS
(EXIT済)

5

キャッシュフロー投資戦略



航空機リース1号ファンド
JVによる航空機ファイナンス



エネクスインフラファンド



タイ・コンサル事業

各投資戦略の進捗(1/2)

投資戦略	ファンド (コアファンド:主力となるファンド フロンティアファンド:将来コアファンド化を目指すファンド)
<p>1</p> <p>成長投資戦略</p> <p>コアファンド</p> <p>ソリューション</p>	<p>グロース1号ファンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2017年末より、成功報酬の獲得ステージに到達、ファンド終結に向けてExitを進める ✓ 株式会社オキサイド、上場に伴いEXIT <hr/> <p>グロース2号ファンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 投資対象の価値の最大化に注力 <hr/> <p>BizTechファンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2019年5月に伊藤忠商事ほか、複数の事業会社とともにファンドを組成 ✓ 総額31億円にて募集完了 ✓ 新規にグラフェンユニファイ、匠、Luupなど、既に10社以上へ投資済 <hr/> <p>China Fintechファンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 中国フィンテック企業 中科金社への投資 ✓ あおぞら銀行と連携、事業は順調に成長
<p>2</p> <p>不動産投資戦略</p> <p>コアファンド</p>	<p>Spring REIT</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 既存銀行借入(約510億円)の借換え完了(期限24/11) ✓ 転換社債(約82億円)は2月に転換済 ✓ 中国の不動産開発大手のSino Ocean Groupを戦略的パートナーとして迎える ✓ 更なる資産の組み入れを目指す
<p>3</p> <p>バリュー投資戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 前回危機時のProject Sweepは17年に終了 ✓ コロナ禍の影響の推移を注視し、取り組みを検討

各投資戦略の進捗(2/2)

投資戦略	ファンド	(ソリューション事業: 投資対象に対して事業的関心を有する投資家を対象とした事業)
4 バイアウト・承継投資戦略	コアファンド	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2018年4月に、ファンド総額213億円の規模で最終募集完了 ✓ 株式会社ツノダのEXIT完了 ✓ 新たに東京電解株式会社、株式会社宮武製作所/エア・リゾームに投資 ✓ 計8社へ投資実行し、既に3社売却済み
		<ul style="list-style-type: none"> ✓ バイアウト2号ファンド ✓ 400-500億円規模の新規ファンドを企画 ✓ バイアウト1号ファンドの投資進捗に伴い組成開始 ✓ ファンド募集を開始
5 キャッシュフロー投資戦略	コアファンド	<ul style="list-style-type: none"> ✓ エネクスインフラ投資法人 ✓ エネクスインフラ投資法人を東証インフラファンド市場に上場 ✓ 松阪太陽光 発電所の新規組み入れにより国内最大規模に成長
	フロントティア	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 再エネ・ウェアハウジングファンド ✓ コロナ禍の影響を受けにくく、ESG/SDGs関連の取り組みとして、再生可能エネルギー施設のウェアハウジングファンドを組成、総額75億円にて募集完了 ✓ 案件投資継続、将来のコアファンド化を目指す
	ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 航空機リースファンド ✓ ファンド総額120億円超、コロナ禍発生後に1号ファンドの投資完了 ✓ Airborne社と合併契約、総合的な航空機ファイナンス事業を開始 ✓ タイ国進出を目指す事業会社等に対する、戦略的ソリューション事業累計3プロジェクト実施済 ✓ タイマンション開発事業への投資管理サポートを受託

投資事例

株式会社Luup (BizTechファンド)



- 街じゅうを「駅前」化する新しい短距離移動インフラ創出を目指し、電動・小型・一人乗りのマイクロモビリティのシェアリング事業を運営
- メインプロダクトである電動キックボードは、近年、他OECD加盟国においては自転車よりも速い速度でシェアリングサービスの普及が進んでおり、日本国内においても同様の市場成長を期待

投資事例

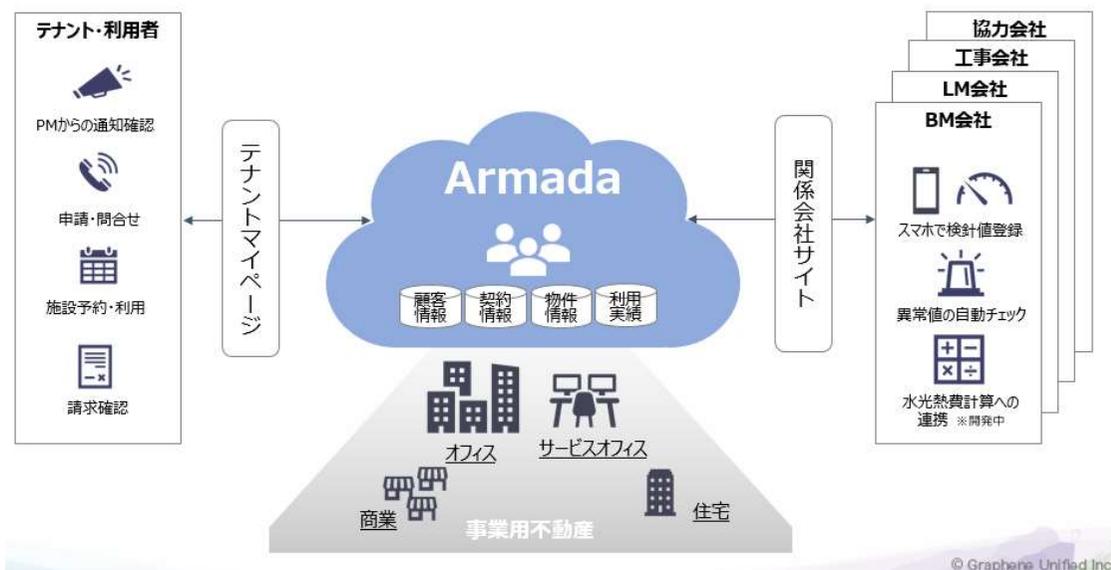
株式会社匠 (BizTechファンド)



- 世界に通用する産業ロボット事業を興すという志の下に設立された福岡のスタートアップで、AGVを始めとする自動搬送ロボットの企画から設計・開発、製造、アフターメンテナンスまでをワンストップで提供
- 優れた技術力と製造開発体制を持ち、スタートアップでありながら既に業界内で高いプレゼンスを有する

投資事例

グラフェンユニファイ株式会社 (BizTechファンド)



Graphene Unified Inc.



Armada

- 事業用ビルやシェアオフィスを中心に、クラウドベースの不動産運用ソフトウェアを提供する不動産テック企業
- 日本の不動産運用における、管理・運用業者の業務効率化やDXに資するクラウドソフトウェアを提供するパイオニア

投資事例 株式会社宮武製作所／株式会社エア・リゾーム (バイアウト1号ファンド)

 MIYATAKE



Air Rhizome Interior



- 1960年に創業して以来、家具の製造、卸事業を行う。2006年からは、家具・インテリア雑貨のインターネット通販（以下、「EC」といいます。）を目的とした子会社としてエア・リゾームを立ち上げ、今日まで順調に業容を拡大
- 創業家の事業承継問題の解決及び宮武製作所グループの更なる発展を支援

投資事例

株式会社イーテック物流（バイアウト1号ファンド）



- 京都・滋賀を主要拠点としたトラック輸送を行う地域の優良中堅企業であり、多方面にアクセス可能な拠点立地からドライ・チルド・冷凍物流に対応可能な事業者として高品質なサービスを提供
- 当社の戦略株主である伊藤忠商事とともに、事業基盤をさらに強固なものにするとともに、ハンズオン支援により更なる成長を目指す

投資事例

東京電解株式会社（バイアウト1号ファンド）



- 1950年に設立され、高融点金属の溶解精錬において優れた技術力と生産能力を有する
- 半導体に使用される高純度インゴット及び加速器科学に関連する大型研究施設に関わるニオブ事業においても、世界トップクラスの実績とシェアを有する
- JX金属との共同投資

投資事例

タイ不動産プロジェクト（ソリューション事業）



- 現地デベロッパーのOriginProperty社が手がけるバンコク中心部の分譲マンションにメザニン投資
「Knightbridge Phaholyothin Interchange」(726戸)
「Knightbridge Sukhumvit Thepharak」(474戸)
- プロジェクト合計の投資対象は約1,250戸に上る

ESG/SDGsへの取組み事例紹介

(1) Environment (環境問題)

○クリーンエネルギー

- ・再生可能エネルギーを投資対象とするエネクス・インフラ投資法人の共同スポンサー

○廃棄物・使用エネルギーの削減・資源の有効活用

- ・当社子会社 SAML が運用する香港上場リート Spring REIT の保有資産であるオフィスビルの環境対策の徹底
- ・気候変動問題、陸上・海洋資源保護等への貢献が期待できる人工衛星のシェアビジネスを目指す米国企業 Loft Orbital Solutions Inc.への出資



(2) Society (社会問題)

○経済成長・雇用確保・産業技術革新・地域活性化

- ・中堅・中小企業の円滑な事業承継や成長支援のためのファンドの運営
- ・不動産・物流業界のイノベーションを支援するファンドの運営
- ・当社子会社ビズマによる事業課題の解決支援プラットフォームの運営

○金融包摂拡大による貧困撲滅や利便性の向上

- ・中国のフィンテック企業北京中関村科金技術有限公司への投資を目的とするファンドの運営



(3) Governance (企業統治)

○ガバナンス機能の高度化に向けた貢献

- ・中堅・中小企業の円滑な事業承継や成長支援のためのファンドの運営 等

2. 2021年12月期第2四半期 決算ハイライト

2021年12月期第2四半期ハイライト

1. 連結業績

- 年間連結業績予想**営業収益35億円/経常利益15億円**に対し、第2四半期実績**営業収益21億円/経常利益12億円**
- 自己投資において、バイアウト1号ファンドの投資先Exitの損益取込による**3.9億円**と、第1四半期に計上したインフラ投資法人への太陽光発電施設組入による**2.9億円**が**営業収益に貢献**

2. 事業企画/ 新規ファンド組成

- タイ事業においては、**相鉄不動産が経営参画するタイマンション開発事業の投資管理サポート**を受託
- **人工衛星のライドシェアビジネス**を行うLoft Orbitalが、**官民10プロジェクトの乗合衛星2基の打上を成功**

3. 既存ファンド運営

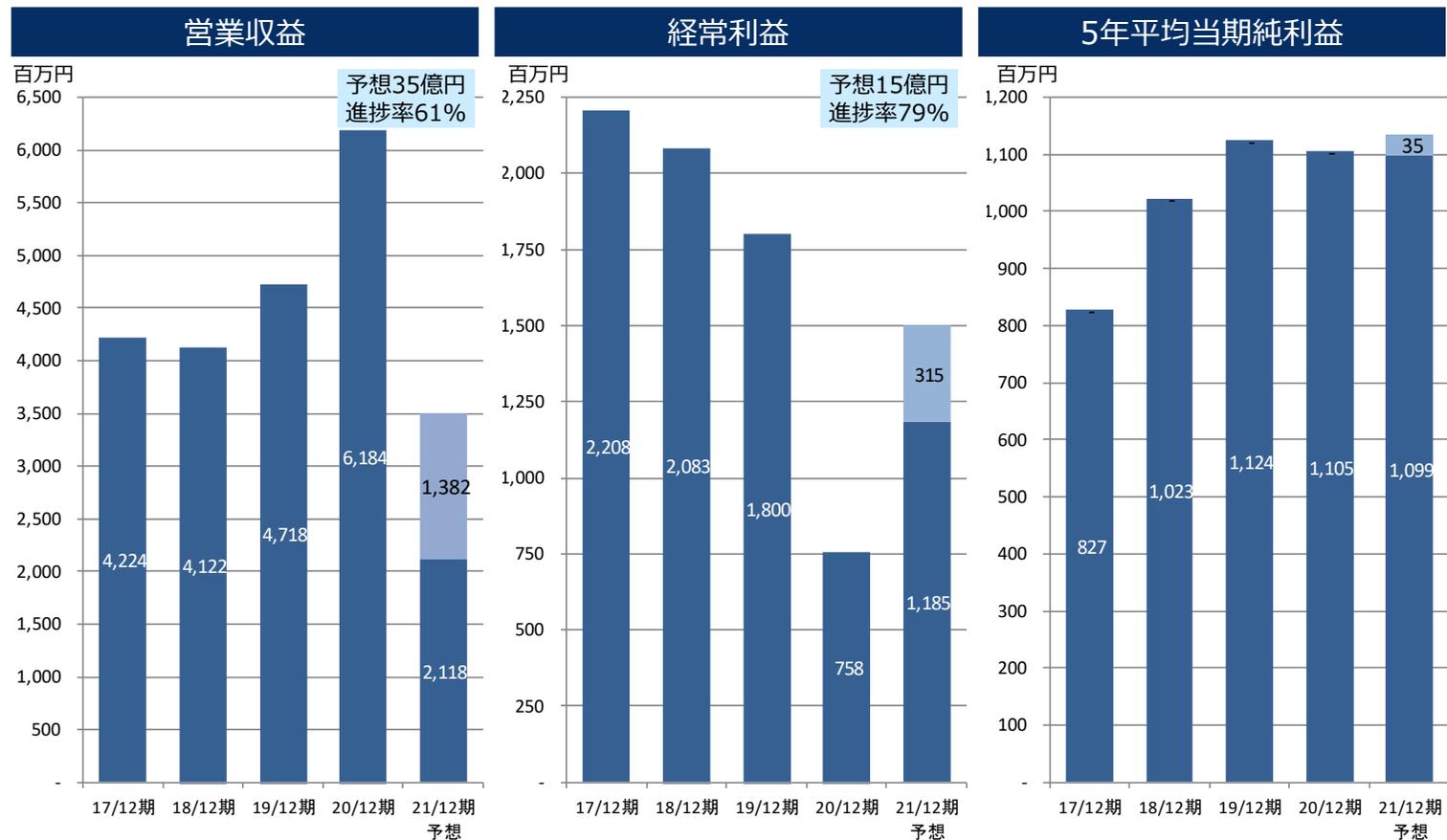
- バイアウト1号ファンドでは、事業会社に対して**ツノダの投資Exitが完了**、JX金属向け半導体原料の加工を行う**東京電解**、家具の製造・卸事業を行う**宮武製作所/エアリゾームへの新規投資を実行し、2号ファンドの組成準備に着手**
- グロース1号ファンドでは、東証マザーズ市場への上場により**オキサイドの投資Exitが完了**

4. コーポレート

- マーキュリアホールディングスを設立し、**持株会社体制へ移行**
- 事業機会の機動的な獲得による更なる成長機会の追求及び経営管理体制の強化を目指す（2021年7月1日付）

1. 連結経営成績（1/3）～概要～

- 予想営業収益35億円/経常利益15億円に対し、実績営業収益21億円/経常利益12億円
- 今期もコロナの影響が残るものの各事業の推進により、経常利益の進捗は順調



1. 連結経営成績（2/3）～対前年比/対予算比～

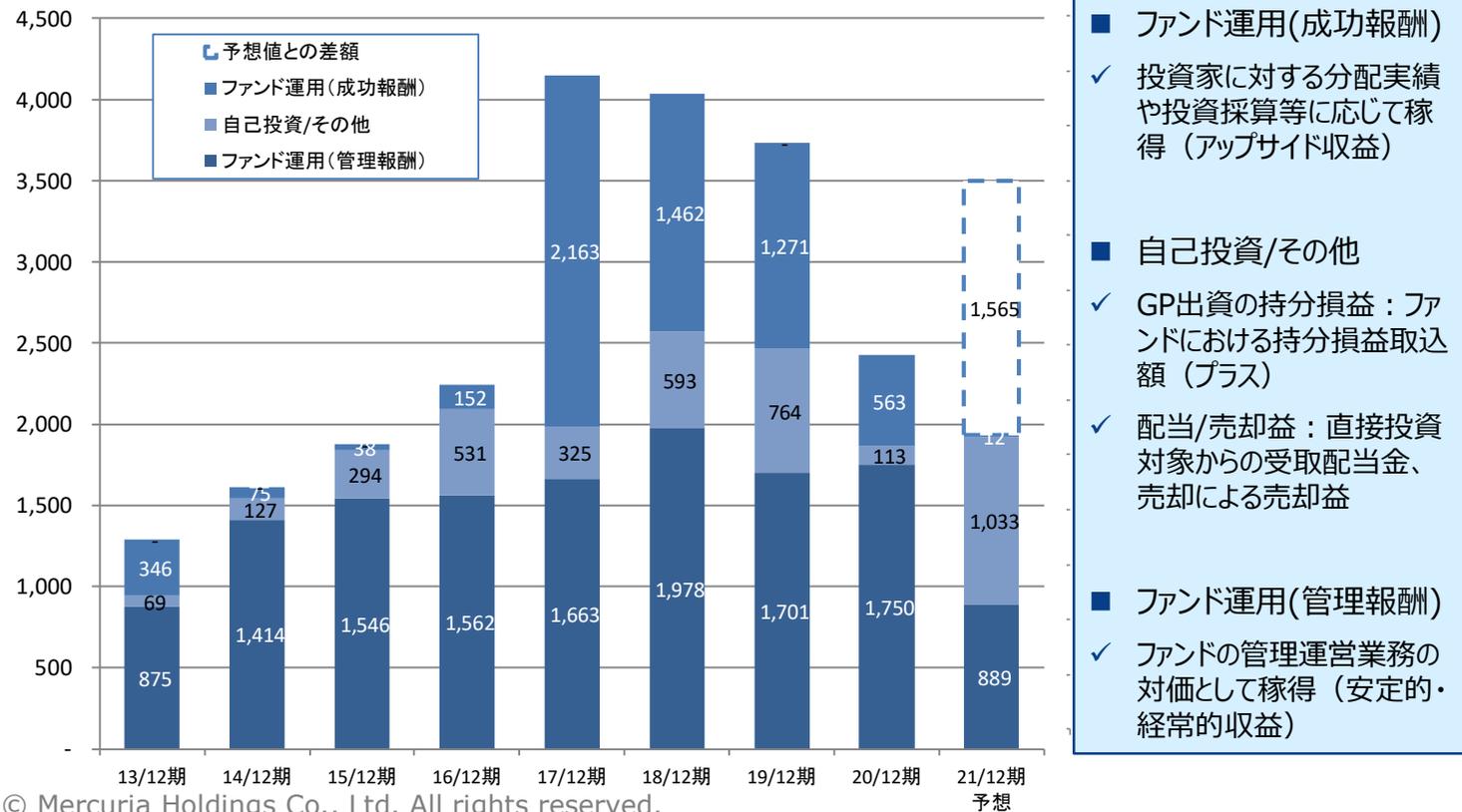
- 経常利益は、自己投資にてバイアウト1号ファンドの投資先Exitの損益取込による収益3.9億円
インフラ投資法人への太陽光発電施設組入による収益2.9億円等を計上することにより、11.8
億円を計上（対前年比691%/予算進捗率79%）

単位：百万円		①20/12期 2Q実績	②21/12期 2Q実績	対前年比 ②÷①	③21/12期 業績予想	予算進捗率 ①÷③
営業 収益	ファンド運用 (管理報酬)	882	889	101%		
	ファンド運用 (成功報酬)	-	12	-%		
	自己投資/その他	1,259	1,216	97%		
	合計	2,141	2,118	99%	3,500	61%
	営業原価	△1,193	△184	15%		
	営業総利益	948	1,935	204%		
	販売費及び 一般管理費	△759	△795	105%		
	営業利益	189	1,139	602%	1,500	76%
	経常利益	171	1,185	691%	1,500	79%
	親会社株主に帰属する 当期純利益	117	823	706%	1,000	82%

1. 連結経営成績（3/3）～営業総利益推移～

- 成功報酬は、17年12月期～21年12月期において54億円を計上（うちグロース1号ファンド36億円、金融危機時に組成したバリュー投資ファンド17億円）
- 自己投資は、ファンドへのセムボート出資の増加により17年12月期～21年12月期において38億円を計上。好調なファンド運用を反映し、管理報酬、成功報酬と並ぶ収益の柱に成長

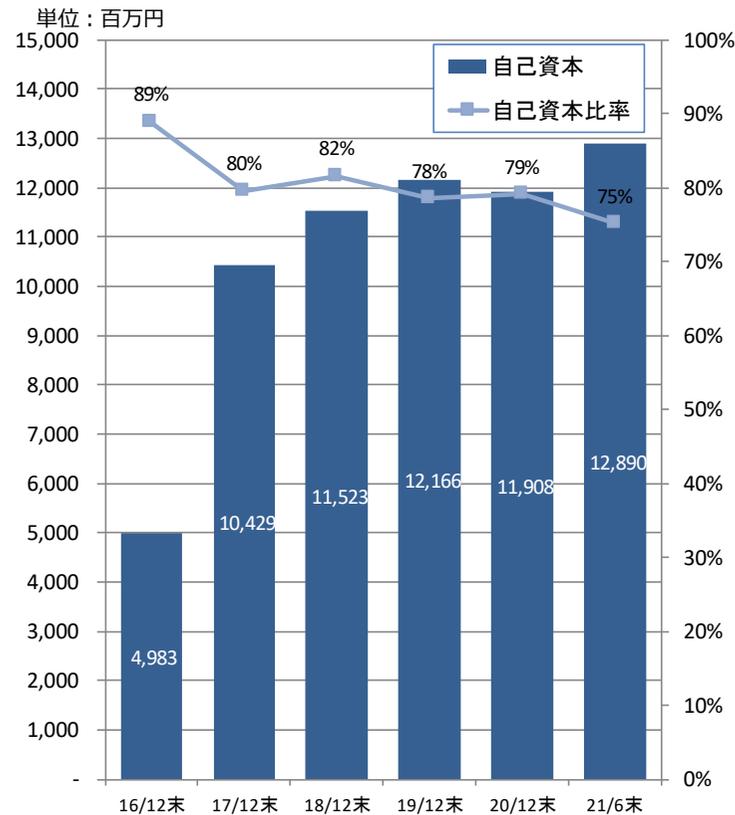
単位：百万円



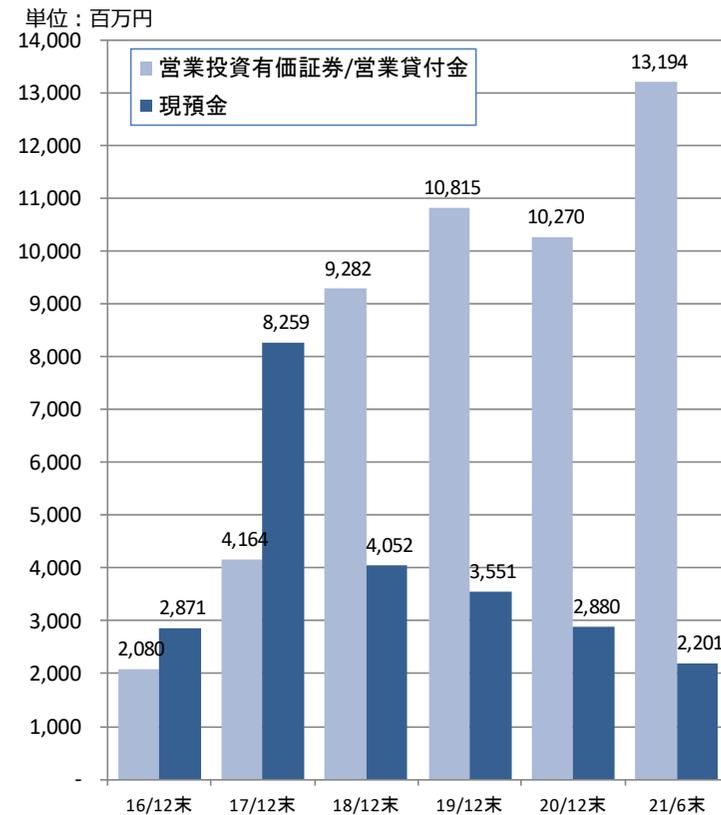
1. 連結財政状態 (1/2)

- 自己資本は毎期の経常的な利益獲得により着実に増加
- 保有有価証券は太陽光施設保有ビークルの清算のための一時保有により前期末比増加

自己資本



現預金/自己投資



1. 連結財政状態 (2/2)

- 自己資本は、期間損益及び保有営業投資有価証券に係る評価益を主要因に10億円増加
- 借入金は、インフラ投資法人への組入が完了した太陽光施設保有ビークル清算のための一時保有資金の調達を主要因に10億円増加

単位：百万円

		20/12末	21/6末			20/12末	21/6末
流動資産	現預金	2,880 (19%)	2,201 (13%)	流動負債	借入金	423(3%)	1,523(9%)
	営業未収入金	374(2%)	324(2%)		その他流動負債	574(4%)	593(3%)
	営業投資有価証券/ 営業貸付金	10,270 (68%)	13,194 (77%)	固定負債	長期借入金	874(6%)	809(5%)
	その他流動資産	463(3%)	536(3%)		その他固定負債	713(5%)	685(4%)
固定資産	投資有価証券	305(2%)	305(2%)	純資産	自己資本	11,908 (79%)	12,890 (75%)
	その他固定資産	760(5%)	587(3%)		(内訳)	(内訳)	(内訳)
					株主資本	12,492	12,981
			その他有価証券		△383	24	
			評価差額金 為替換算調整勘定		△201	△116	
			その他純資産	561(4%)	647(4%)		

2. 配当の状況

- 配当基本方針に基づき、21年12月期は1株当たり配当金20円（5年平均当期純利益に対する配当性向31.2%）を見込む

配当の方針

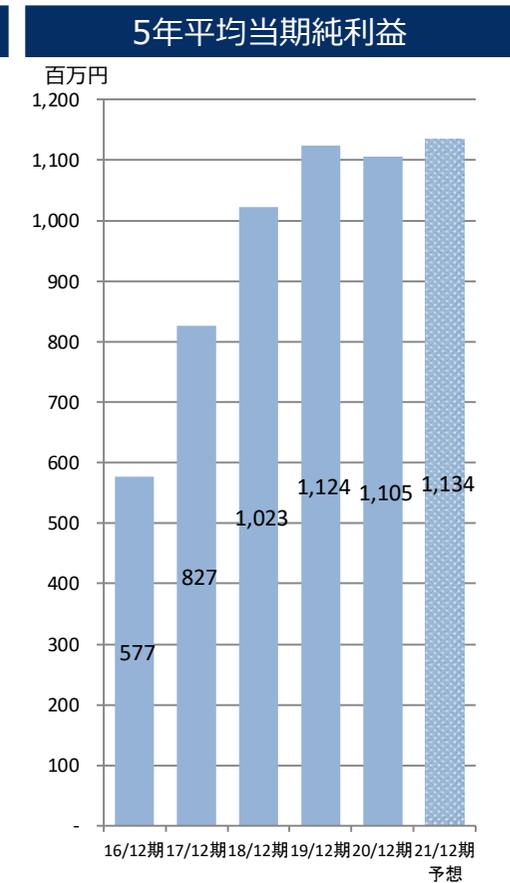
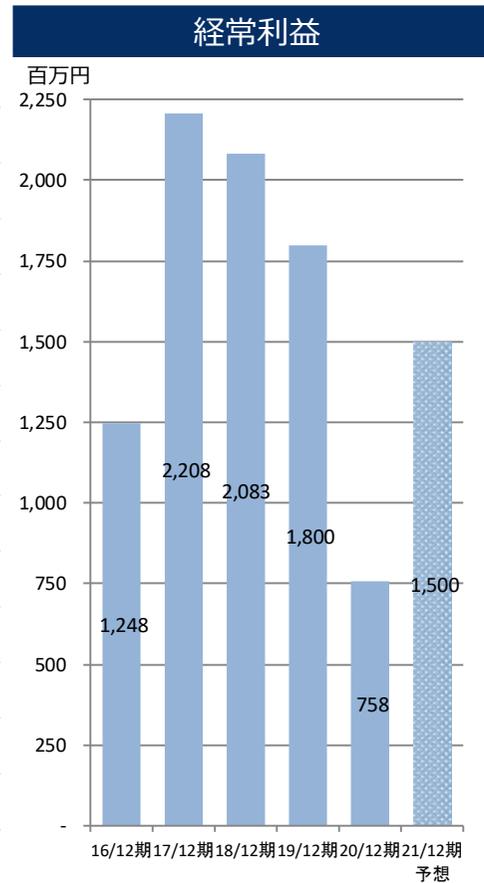
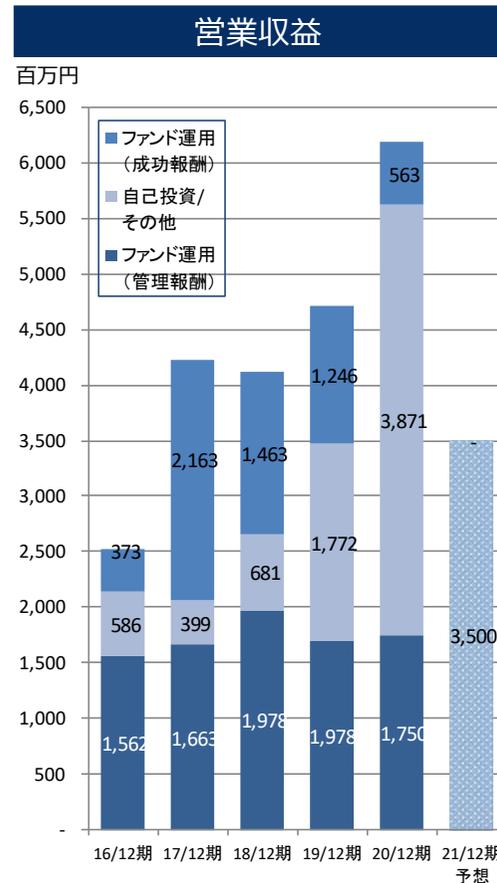
- 株主還元は配当を基本とし、配当の安定性に配慮します
- 当面は配当性向は30%程度を目安としますが、当社は成功報酬等による損益への影響が比較的大きいことから、単年度損益の影響を抑制し、配当の安定性を高めるために、当面は対象利益指標を「5年平均当期純利益」とします
- 「5年平均当期純利益」は、5年平均の親会社株主に帰属する当期純利益ですが、13/12月期以前は未監査のため算定式には含めておりません
- 「5年平均当期純利益」の成長を通して、配当水準を引き上げることを目指します

単位：百万円	17/12期実績	18/12期実績	19/12期実績	20/12期実績	21/12期予想
①親会社株主に帰属する当期純利益	1,490	1,411	1,245	525	1,000
②5年平均当期純利益	926	1,023	1,124	1,105	1,134
③1株当たり配当金	17円	18円	19円	20円	20円
④発行済株式総数	17,234,500株	17,466,100株	17,606,500株	17,644,900株	17,670,100株 [※]
⑤配当金総額(③×④)	293	314	335	353	353
⑥配当性向(⑤÷②)	31.6%	30.7%	29.8%	31.9%	31.2%

※ 21/12期予想の④発行済株式総数は21年6月末実績

3. 2021年12月期の連結業績予想

- コロナの影響が残るが、各事業の着実な進捗により、期首業績予想の営業収益35億円/経常利益15億円を見込む



4. 中期目標（見直し後）（2020年8月13日公表資料よりアップデート） ～目標期間の位置付け～

経営理念

ステークホルダーの幸せの総量を増やす～Growth of Happiness～

1st Stage

- ① クロスボーダーをテーマとした新たなグロースファンドのアプローチを示す
- ② Spring REITの上場を果たすことにより一定程度の収益基盤を確保

2nd Stage

- ① 東証への上場による社会的信用力の向上により資金調達力を強化
- ② マルチストラテジーのファンド運用会社とすることで、外部環境に左右されない安定成長の収益基盤を構築

Next Stage

各投資戦略の拡大により、世界に冠たる投資グループを目指す

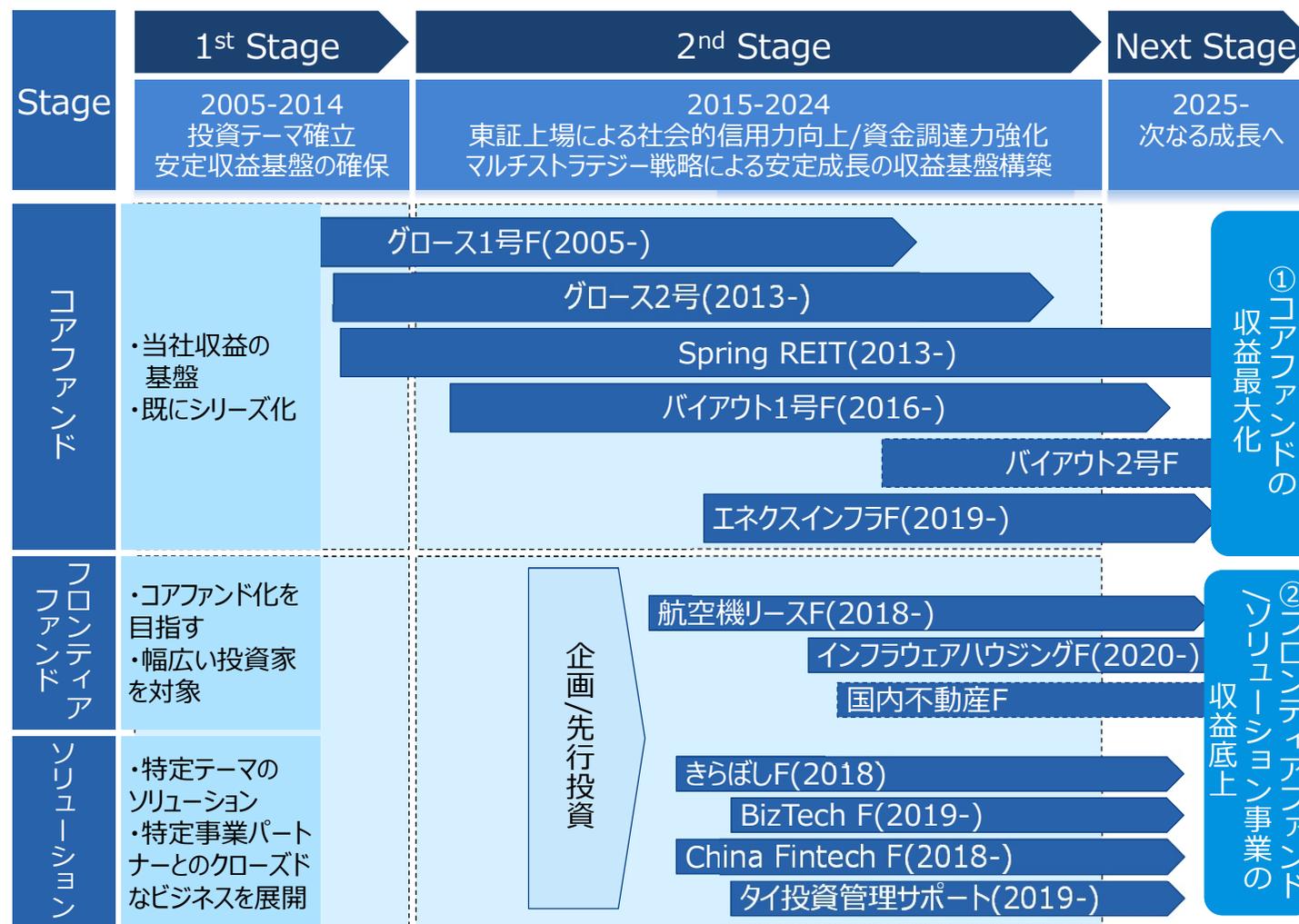
2nd Stage前半の実績

- 2017年までに東京証券取引所市場への上場及び新株発行により自己投資資金を調達
- 2018年までに上記調達資金を活用し、新たにバイアウト承継投資戦略及びキャッシュフロー投資戦略を策定すること、当該戦略に基づく新規ファンドを組成することで、マルチストラテジーのファンド運用会社の基盤を確立
- 2021年7月に各投資戦略の拡大に資するプラットフォームを確立すべく、持株会社体制へ移行

目標期間の位置付け（～2025年）

- 2019年から2025年の目標期間は、①コアファンドによる収益最大化（成功報酬）を図るとともに、②フロンティアファンド及びソリューション事業による収益の底上げ（管理報酬）を図る期間

4. 中期目標（見直し後）（2020年8月13日公表資料よりアップデート） ～各ファンドのステータス～



4. 中期目標（見直し後）（2020年8月13日公表資料よりアップデート） ～各ファンドの投資戦略及び目標～

ファンド区分		投資戦略	目標
事業投資	バイアウト1号ファンド (バイアウト投資)	<ul style="list-style-type: none"> - 「クロスボーダー」の観点で貢献可能な企業へ投資を行うことで、双方がWin-Winとなる投資の実施 - オーナー企業の事業承継、上場企業の非公開化に加え、事業会社のノンコア事業のスピナウト・カーブアウト等の「企業の支配構造の変化」に着目した、投資機会を捉える - 2号ファンドでは、「新型コロナ禍」の経済停滞の影響も重なり、事業再生案件の増加傾向を捉え、事業再生ノウハウを生かすことの出来る企業・事業を見出す 	<ul style="list-style-type: none"> - 堅実なファンド運営（新規投資～バリュアアップ～Exit）により投資倍率2倍（IRR15%×5年）程度を目指すことで、成功報酬の最大化を図る
	バイアウト2号ファンド (バイアウト投資)		
	BizTechファンド (成長投資)	<ul style="list-style-type: none"> - ソリューション - 伊藤忠商事とともに不動産・物流分野におけるテクノロジーによる成長企業を支援 - きらぼし銀行とともに国内中堅・中小企業の円滑な事業承継及び成長を支援 - 中国フィンテック企業中科院社及びあおぞら銀行とともに協力関係を構築 	<ul style="list-style-type: none"> - 事業パートナーとの連携を重視したファンド運営により投資倍率2倍（IRR15%×5年）程度を目指すことで、成功報酬の最大化を図る - 中国展開を付加価値とする新規ファンド組成を模索
	きらぼしファンド (バイアウト投資)		
China Fintech ファンド(成長投資)			

4. 中期目標（見直し後）（2020年8月13日公表資料よりアップデート） ～各ファンドの投資戦略及び目標～

ファンド区分		投資戦略	目標
資産投資	グロース1号ファンド/ グロース2号ファンド (成長投資)	- 「クロスボーダー」をコンセプトとし、あらゆる垣根を超え、日本の強みを基盤として世界に広がる成長分野や成長可能性への投資を実施	- 既存投資先のExitにより成功報酬の最大化を図る
	Spring REIT (不動産投資)	- 中国国内消費市場の拡大とともに北京の貸オフィスビル市場が成長することを見越し、中央商業地区の大型グレードAオフィスへの投資を実施 - 現在は香港証券取引所の上場REITとして運営を行う	- 資産組入により取得報酬の獲得/管理報酬の底上げを目指す
	エネクス・インフラREIT(CF投資)	- 再生可能エネルギー発電設備等への投資を行う（東京証券取引所上場）	- 資産組入により取得報酬の獲得/管理報酬の底上げを目指す
	航空機リース ファンド(CF投資)	- 長期的に成長する航空旅客需要を背景に、価格変動リスクが低い航空機（実物資産）への投資を実施	- キャッシュフロー戦略ファンド（安定キャッシュフローを投資家へ提供することを目的とするファンド）として、合計1,000億円規模のファンドレイズを模索
	インフラファンド/ 再エネ・ウェアハウジング ファンド(CF投資)	- エネクス・インフラREIT(上場REIT)を活用した太陽光施設の再エネ・ウェアハウジングファンドを組成	
	不動産ファンド (CF投資)	- 海外投資家の資金力を背景とした、国内不動産（事業性不動産）への投資機会を模索	

4. 中期目標（見直し後） （2020年8月13日公表資料よりアップデート） ～定量目標～

	成長性	安定性
2025年 12月期 目標	5年平均当期純利益 20億円以上	自己資本 1.5倍 (173億円)
2020年 12月期	11.0億円	1.03倍 (119億円)
2019年 12月期	11.2億円	1.06倍 (122億円)
2018年 12月期 実績 (基準)	5年平均当期純利益 10億円	自己資本 115億円

3. これからの マーキュリアインベストメントグループ

“ファンドの力で、
日本の今を変える”

マーキュリアインベストメントグループ経営理念

クロスボーダー（国の壁、心の壁、世代の壁を超えて） ～Cross Border～

あらゆる垣根を超え、日本の強みを基盤として世界に広がる成長分野や成長可能性への投資を中心に、産業界・投資業界の幅広いネットワークを通じ、ユニークな投資機会を見出すことを目的としています。

世界に冠たる投資グループへ ～Global Reach～

オルタナティブ（代替）投資でのアルファ（超過利得）の獲得を追求し、投資資金が有効に使われて循環することで、ファンドの投資家のみならず、投資先並びに当グループの株主をはじめ様々なステークホルダーの皆様にリターンを分配する、世界に冠たる投資グループを目指します。

5年後の常識 ～Undiscovered Common～

今は意識されていないけれども、5年後には当たり前になっている、そういった分野に取り組み開発していくことが、当グループの将来を切り開いていくものと考えます。

持株会社体制プラットフォーム (1/2)

運用市場	LP投資家/顧客					LP投資家/顧客			LP投資家/顧客		LP投資家/顧客	
投資戦略	バイアウト					グロース			キャッシュ・フロー		不動産	
事業単位	事業投資					資産投資			エネクス AM	Mercuria Thailand	SAML	MIBJ
	バイアウト 1号	バイアウト 2号	きらぼし	Biztech	China Fintech	グロース 2号	航空機 リース	インフラ ウェア ハウジング	エネクス インフラ REIT	タイ コンサル	Spring REIT	
リーダー	小山					許	石野			百田	Kevin	Judy
事業区分	事業投資					資産投資					Spring REIT	
法人格	Mercuria Investment(MIC)								エネクス AM	Mercuria Thailand (タイ)	SAML (香港)	MIBJ (中国)
持株会社 プラットフォーム	Mercuria Holdings(MHD)											
	<p>経営理念 クロスボーダー (国の壁、心の壁、世代の壁を超えて) 世界に冠たる投資グループへ 5年後の常識</p>											
リーダー	豊島					中井			滝川			
資本市場	株主											

持株会社体制プラットフォーム（2/2）

事業 チーム	<p>事業投資リーダー</p>  <p><u>小山 潔人</u> 取締役CIO 事業投資統括</p> <p>統括ファンド <ul style="list-style-type: none"> ・バイアウト1号ファンド ・バイアウト2号ファンド ・きらぼしファンド ・Biztechファンド ・China Fintech ファンド 経歴 <ul style="list-style-type: none"> ・日本政策投資銀行 </p>  <p><u>許 曉林</u> 執行役員 中国事業統括</p>  <p><u>荒谷 徹</u> MD 営業部長</p>	<p>資産投資リーダー</p>  <p><u>石野 英也</u> 取締役COO 資産投資統括</p> <p>統括ファンド <ul style="list-style-type: none"> ・グロース1号ファンド ・グロース2号ファンド ・インフラウェアハウジングファンド ・航空機リースファンド 経歴 <ul style="list-style-type: none"> ・ソロモン・ブラザーズ </p>	<p>Spring REIT事業リーダー</p>  <p><u>Leung Kwok Hoe, Kevin</u> Spring Asset Management Limited</p>  <p><u>Yan Judy</u> MIBJ Consulting (Beijing) Co., Ltd.</p> <p>タイ事業リーダー</p>  <p><u>百田 稔</u> Mercuria (Thailand) Co., Ltd.</p>
	<p>持株会社 プラト フォーム</p> <p>マーキュリアインベストメントグループリーダー</p>  <p><u>豊島 俊弘</u> 代表取締役 CEO</p> <p>グループ最高責任者 経歴 <ul style="list-style-type: none"> ・日本政策投資銀行 ・世界銀行 </p> <p>事業企画リーダー</p>  <p><u>中井 竜馬</u> 執行役員 事業企画統括</p> <p>経営管理リーダー</p>  <p><u>滝川 祐介</u> 執行役員 経営管理統括</p>		

マーキュリアの先見性

- 様々なマクロトレンドの変化を読み取り、ファイナンシャル・パートナーとして事業のクロスボーダーな成長をサポート



中国経済成長



リーマンショック

STELLAR WORKS



東アジア経済成長



超高齢化社会



マーキュリアの有言実行力（“5年後の当たり前”を実現化）

■ 将来を見据えた金融商品への開発と実績

2016年東証2部上場時の環境

高齢化による
事業承継問題

年金受給者の増加
に答える代替運用

リース業界の変動

金融危機からの脱却
アベノミクス開始



解決策

バイアウトファンドの
シリーズ化・Bizmaに
よる事業承継の啓蒙

キャッシュフロー投資
新商品開発

航空機リース参入

投資案件のEXIT

実績

200億円
を超えるバイアウト
ファンド組成

バイアウト2号

Spring REIT
(約600億円*)

インフラ・リート
(約345億円*)

* 括弧内は時価総額を表す

120億円超の
ファンド組成

JVによる新たな
航空機
ファイナンス

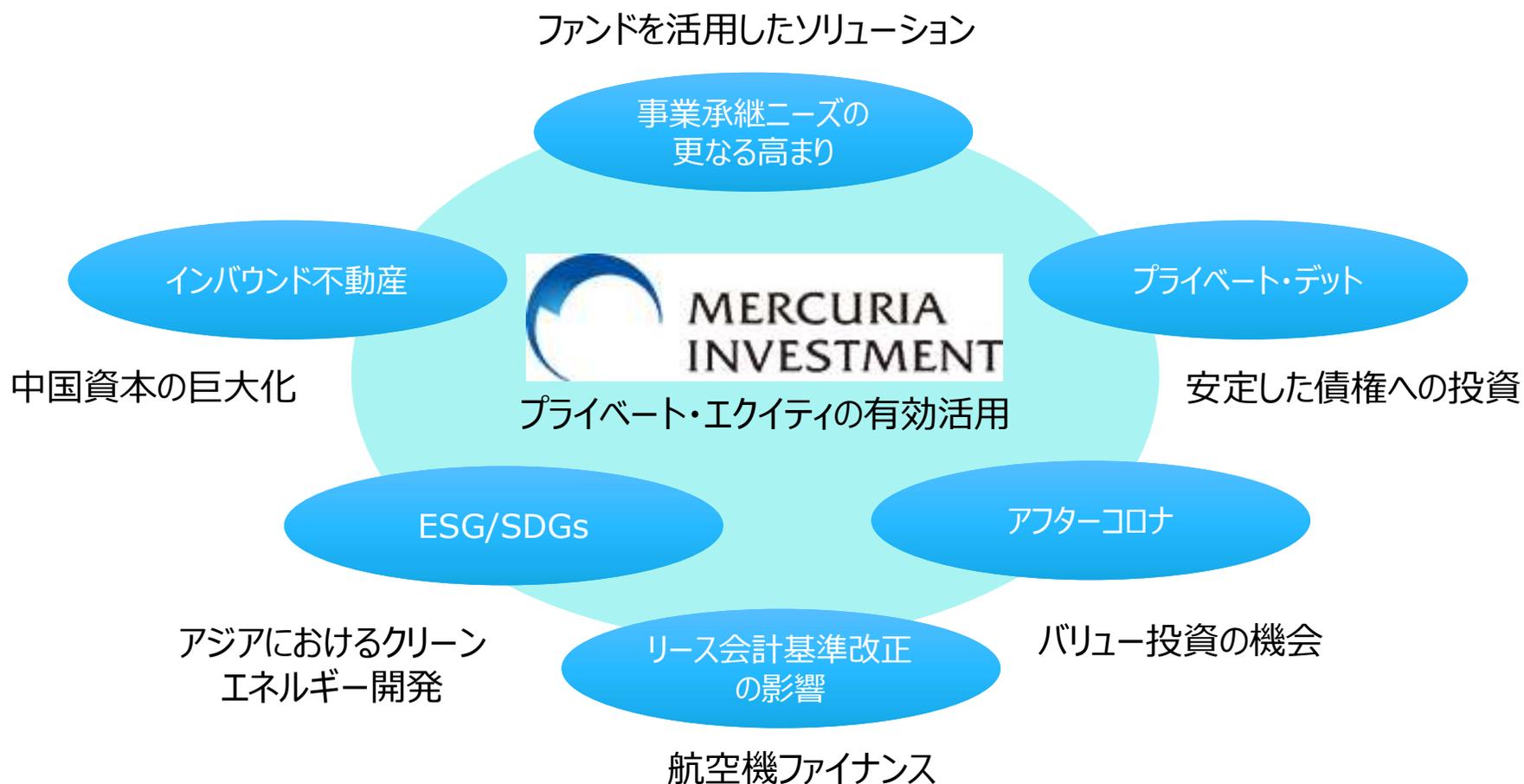
EXIT完了

成功報酬
54億円*

* 5年間累積金額

マーキュリアの今後の展開

- マクロ情勢の変化からビジネスチャンス（“実需”）を捕らえ、5年後の常識を先取り



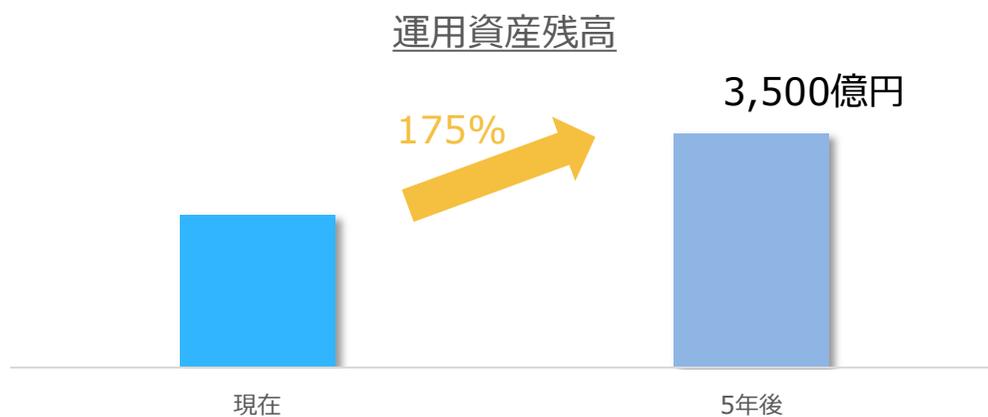
投資事例 LOFT ORBITAL SOLUTIONS INC. (自己投資)



- 宇宙空間利用において人工衛星のライドシェアビジネスをし、人工衛星の手配から、打ち上げ後の運用までを一元的に受託
- 人工衛星利用分野においても、将来的には航空産業と同様に、インフラの所有とデータサービスの提供が分離される可能性を見出す
- 2017年に投資、2021年ミッション成功

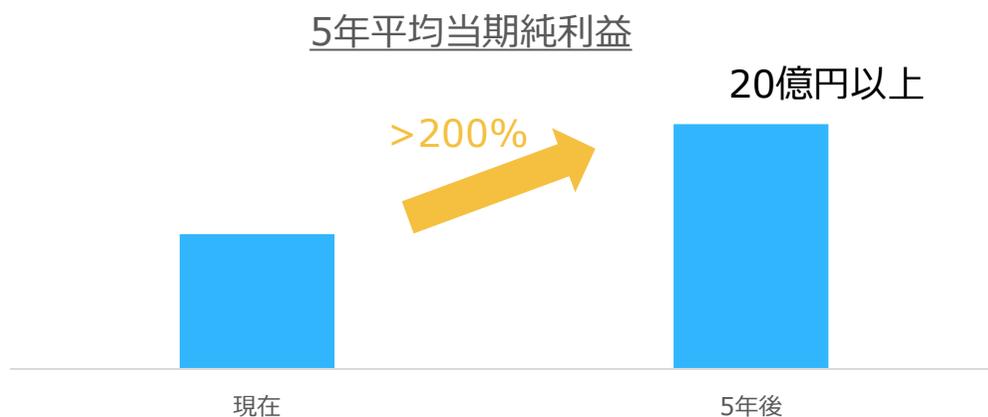
成長ポテンシャル

■ 2025年のあるべき姿



✓ 資産投資：1000億円増

✓ バイアウト投資：400~500億円増

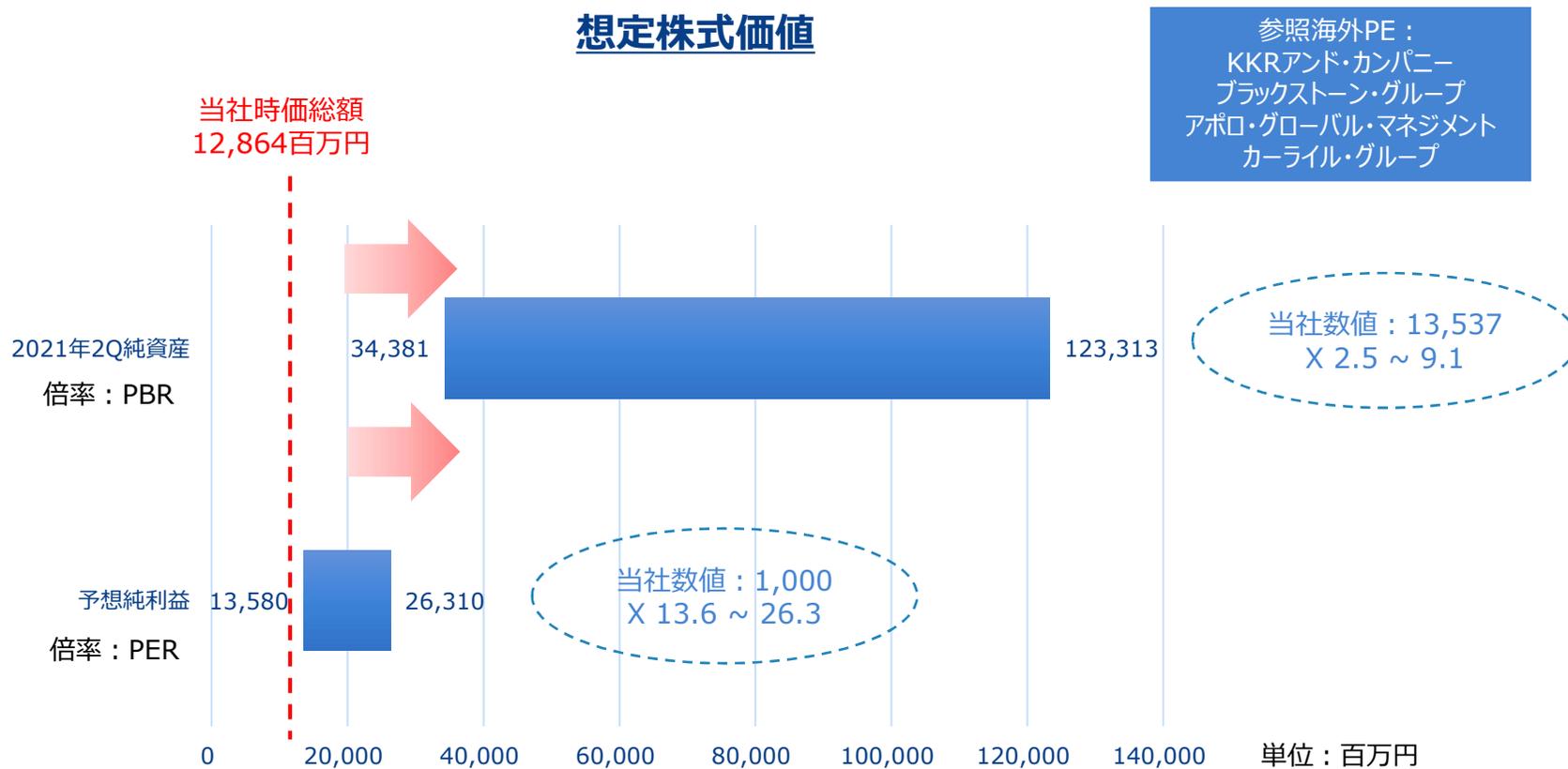


✓ 成長性：現状の2倍以上

✓ 安定性：自己資本1.5倍

当社株式のポテンシャル

■ 海外上場プライベートエクイティファンド運営会社とのバリュエーション比較



2021年8月24日時点
(データ元：Yahoo Finance)

マーキュリアに対する投資メリット

- ✓ **オルタナティブ商品へのアプローチ**
当社株式を取得することにより、プライベートエクイティ投資のリターンを間接的に得ることができる
- ✓ **新規ビジネス展開**
これまでの投資先及びファンド管理の経験からプライベート・エクイティのビジネスフォーマットを活用した新たなビジネスへの取り組み
- ✓ **資本最適化**
実質無借金経営から借入金を有効活用しレバレッジを効かせた投資効果の最大化を狙う
- ✓ **安定性と成長性**
管理報酬による安定収益と自己投資・成功報酬におけるアップサイドのポテンシャル

現状の課題

- プライム市場の上場基準に適合した、随一の東証上場プライベート・エクイティ運用投資グループとして存在感を発揮することを目的とする
- しかしながら新基準を現時点では満たしておらず、流通株式時価総額 100 億円以上にすることが必要
- 課題克服のための 3 つの施策：

業績	持株会社体制を生かし、コアファンドによる収益最大化とフロンティアファンド及びソリューション事業の拡大による収益の底上げを図る
市場評価	積極的なIRを通じて、これまでの着実な実績と将来の新たなビジネス展開に対する、市場の期待値の底上げを図る
資本政策	デットファイナンス及びエクイティファイナンスを通じ、過去同様、運用ファンドにおける自己投資を拡大し収益の最大化を図る

マーキュリアインベストメントグループ概要

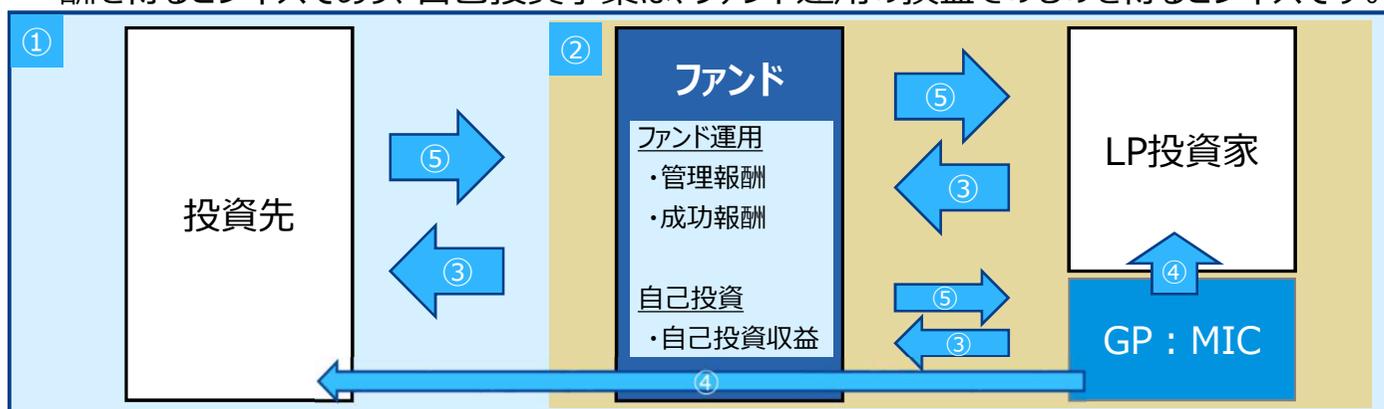
会社概要（2021年7月1日現在）

- 会社名 : 株式会社マーキュリアホールディングス
- 本社所在地 : 東京都千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル
- 設立 : 2021年7月1日（前身のマーキュリアインベストメントは2005年10月5日設立）
- 資本金 : 30億円
- 事業内容 : ファンド運用事業及び自己投資事業
- 経営陣 : 代表取締役CEO 豊島 俊弘
取締役COO資産投資統括 石野 英也
取締役CIO事業投資統括 小山 潔人
- 従業員数 : 連結 62名
- 上場区分 : 東京証券取引所市場第一部（証券コード7347）
- 主要株主 : 株式会社日本政策投資銀行
伊藤忠商事株式会社
三井住友信託銀行株式会社
- 主要関係会社 :
 - 株式会社マーキュリアインベストメント（東京）
バイアウトファンド、グロースファンド、インフラファンド、航空機リースファンド等、プライベートエクイティファンドの運用
 - Spring Asset Management Limited（香港）
Spring REIT（香港証券取引所上場）の運用
 - MIBJ Consulting (Beijing) Co., Ltd.（中国）
China Central Place（Spring REIT保有施設）の管理、及び中国における各種投資コンサルティング
 - Mercuria (Thailand) Co., Ltd.（タイ）
タイに事業展開する日本企業の現地サポート、及びタイにおける各種投資コンサルティング
 - エネクス・アセットマネジメント（東京）
エネクス・インフラ投資法人（東京証券取引所上場）の運用
 - 株式会社ビジネスマーケット（東京）
インターネットを活用した事業承継支援

4. 損益構造と事業別損益 (参考資料)

事業概要

- 当社は、投資家より預かった資金を運用するファンド運用事業、自らが運用するファンドへ自己資金によるセიმボート投資を行う自己投資事業から構成されます。
- ファンド運用事業は、ファンド運用の対価として管理報酬、ファンド運用成果の対価として成功報酬を得るビジネスであり、自己投資事業は、ファンド運用の損益そのものを得るビジネスです。



投資先		投資家
マクロ環境を踏まえた 資金ニーズの分析	①事業企画	マクロ環境を踏まえた 投資ニーズの分析
パイプライン	②ファンド組成	ファンド契約締結
投資	③投資実行	キャピタルコール
役員派遣、ビジネスマッチング等	④バリューアップ/モニタリング	運用報告
売却	⑤Exit	分配

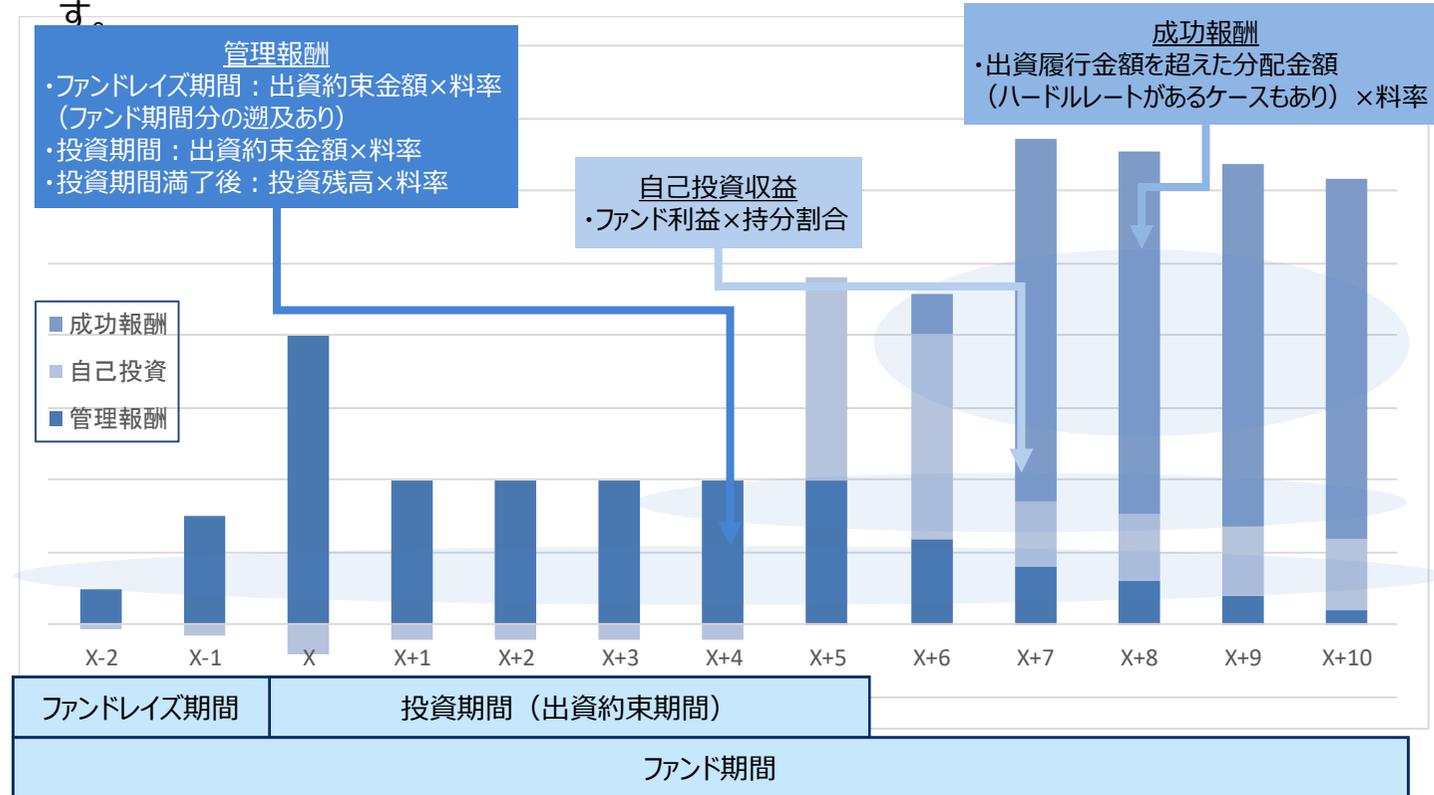
損益構造（1/3）～営業収益区分～

- 当社の営業収益は、ファンド期間のステージに応じて、管理報酬、自己投資収益、成功報酬を得るビジネスモデルであり、それぞれ内容及び発生タイミングは以下の通りです。

営業収益区分	内容	タイミング
管理報酬	- 投資期間中は出資約束金額（ファンド総額）に対して一定割合を乗じた金額を、投資期間満了後は投資金額に対して一定割合を乗じた金額を管理報酬として受領	- ファンド期間にわたり経常に発生
自己投資収益	- ファンドにおける損益に保有比率を乗じた金額を自己投資損益として計上	- ファンド期間において個別投資先のExit等によりファンド利益が計上される都度、発生
成功報酬	- 出資履行金額を超えた分配金額（ハードルレートがあるケースもあり）に対して一定割合を乗じた金額を成功報酬として受領	- ファンド期間の後半においてファンド全体としての投資成果に応じて都度、発生

損益構造（2/3）～営業収益発生モデル～

- 一般的なファンドにおけるファンド期間のステージ毎の管理報酬、自己投資収益、成功報酬のイメージは以下の通りです。
- 当社では複数ファンドを並行して運用を行うマルチストラテジー戦略により収益平準化を図ります。



損益構造（3/3）～営業収益と営業原価/販管費の対応～

- 損益構造は、安定収益たる管理報酬にて固定的に発生する費用を賄い、成功報酬及び自己投資収益によるアップサイドを目指す構造です。



損益推移

- 過去5年間の損益推移は以下の通りです。

単位：百万円

損益推移	16/12期	17/12期	18/12期	19/12期	20/12期	21/12期 Q2
営業収益	2,521	4,224	4,122	4,718	6,184	2,118
営業総利益	2,245	4,150	4,034	3,735	2,426	1,935
管理報酬	1,562	1,663	1,978	1,701	1,750	889
成功報酬	152	2,163	1,462	1,271	563	12
自己投資/ その他	531	325	593	764	113	1,033
販売費及び 一般管理費	△965	△1,920	△1,917	△1,879	△1,654	△795
営業利益	1,280	2,230	2,117	1,856	772	1,139
経常利益	1,248	2,208	2,083	1,800	758	1,185

営業総利益（管理報酬）推移

- 過去5年間の管理報酬に係る営業総利益の推移は以下の通りです。

単位：百万円

営業総利益 (管理報酬)	16/12期	17/12期	18/12期	19/12期	20/12期	21/12期 Q2
事業投資	296	498	821	675	710	368
Spring REIT	974	942	1,065	946	929	447
資産投資	293	223	92	79	111	74
営業総利益 (管理報酬)	1,562	1,663	1,978	1,701	1,750	889

- 事業投資は主として2016年の上場後に組成したファンド総額の拡大に伴い増加していますが、引き続きファンド期間は継続するため、今後も安定収益の基礎となります（18/12期はバイアウト1号ファンドのファイナルクローズ時に過去ファンド期間分の管理報酬を遡及計上）。
- Spring REITは安定して推移していますが、増減の主たる要因は為替の影響による資産評価額の変動によるものです。
- 資産投資は過去ファンドの投資Exitがほぼ終了し、上場時の調達資金により新規ファンドをレイズ中です。

営業総利益（成功報酬）推移

- 過去5年間の成功報酬に係る営業総利益の推移は以下の通りです。

単位：百万円

営業総利益 (成功報酬)	16/12期	17/12期	18/12期	19/12期	20/12期	21/12期 Q2
事業投資	110	-	-	25	-	-
Spring REIT	-	108	-	-	-	-
資産投資	41	2,055	1,462	1,246	563	12
営業総利益 (成功報酬)	152	2,163	1,462	1,271	563	12

- 事業投資は主要ファンドが投資期間中であり、現状においては成功報酬ステージに未到達です。
- Spring REITは17/12期に新規資産の組入を行ったため、アキュジション報酬（成功報酬）を計上しています。
- 資産投資はグロース1号ファンドや金融危機時に組成したバリュー投資ファンド等の過去ファンドの投資Exitにより、成功報酬を計上しています。

営業総利益（自己投資/その他）推移

- 過去5年間の自己投資/その他に係る営業総利益の推移は以下の通りです。

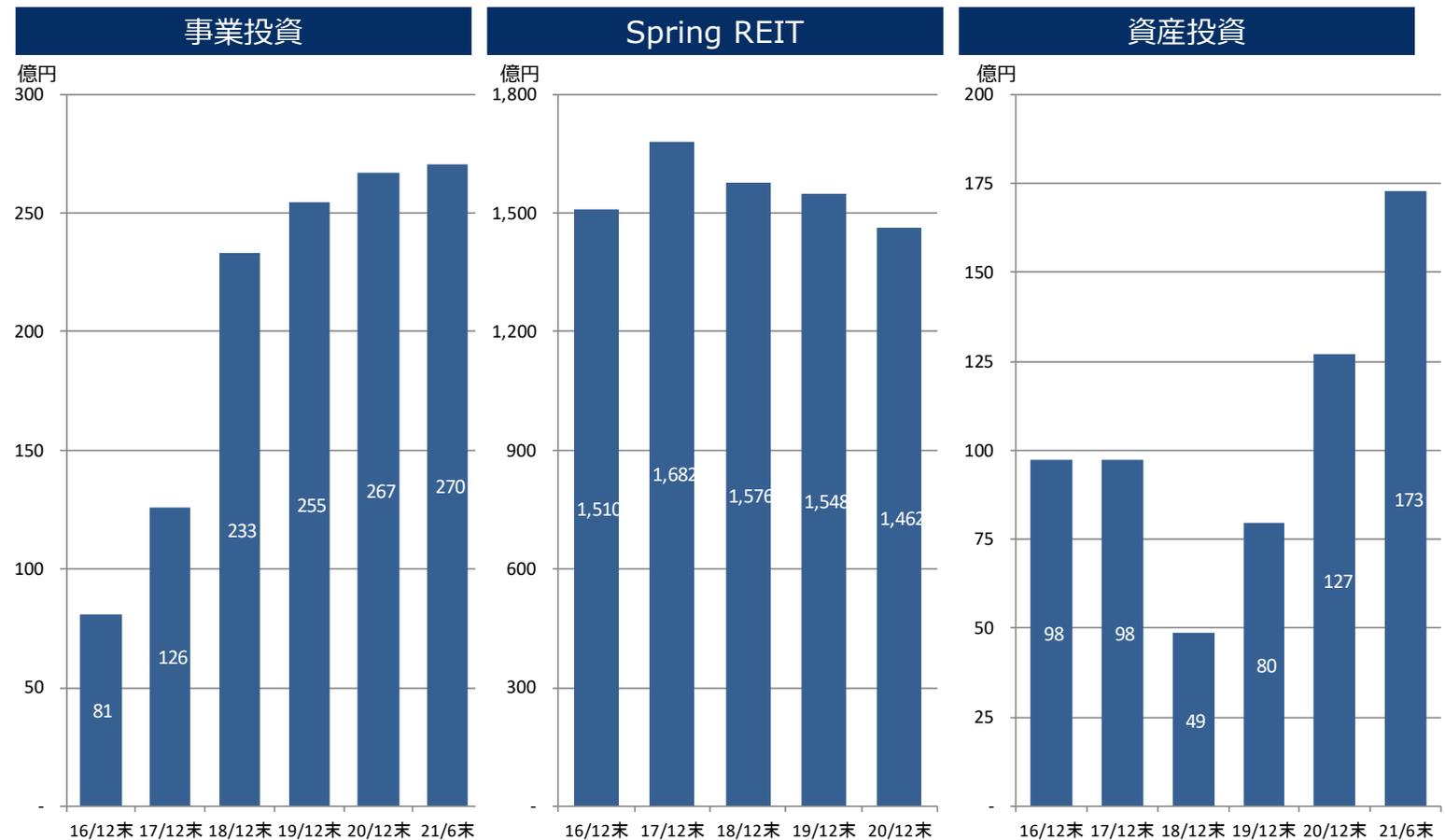
単位：百万円

営業総利益 (自己投資/その他)	16/12期	17/12期	18/12期	19/12期	20/12期	21/12期 Q2
事業投資	0	-1	288	142	-7	393
Spring REIT (うち配当)	76 (77)	92 (93)	308 (282)	136 (233)	-106 (364)	257 (228)
資産投資	455	234	-2	485	227	383
営業総利益 (自己投資)	531	325	593	764	113	1,033

- 事業投資は主要ファンドは投資期間中ですが、既存投資の一部投資先のExitにより、ファンド損益取込を通して、自己投資利益を計上しています。
- Spring REITは配当収入による安定収益を計上していますが、19/12期及び20/12期はリストラクチャリングに伴う評価損失を計上しています。
- 資産投資はグロース1号ファンドや金融危機時に組成したバリュート投資ファンド等の過去ファンドへの自己投資が、ファンド損益取込を通して、自己投資利益に計上されています。

(参考) 管理報酬 ～基準資産残高推移～

- 各事業セグメントにおける管理報酬の計算基準となる金額残高の推移は以下の通りです。



(参考) 成功報酬
 ～過去ファンドの成功報酬累計と既存運営ファンド一覧～

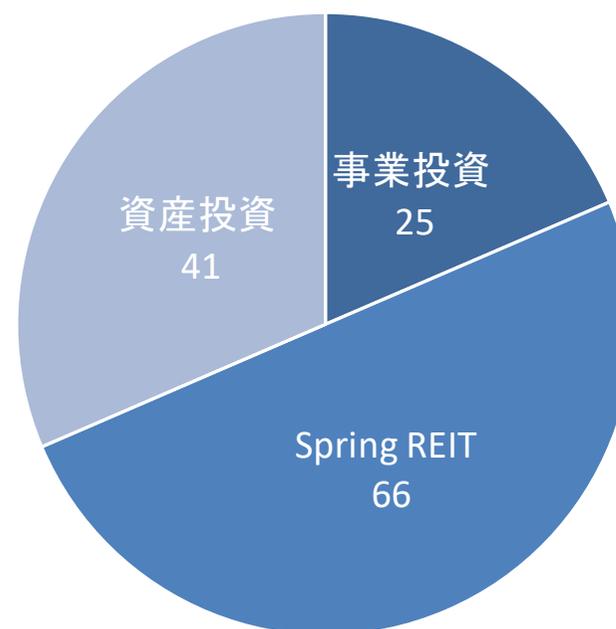
	ファンド区分	投資戦略	主要パートナー	ファンド総額	ファンド期間	成功報酬累計
過去 フ ア ン ド	グロース1号ファンド	成長	DBJ他	70億円	2005-	36.7億円
	Project Sweep	バリュー	海外投資家	98億円	2010-2017	16.0億円
	Project CS	バリュー	海外投資家	26億円	2012-2020	2.2億円
	Project Sonoko	バイアウト	国内投資家	15億円	2013-2019	3.3億円
事業 投 資	バイアウト1号ファンド	バイアウト	DBJ、SMTB他	213億円	2016-	(投資期間)
	きらぼしファンド	バイアウト	きらぼし、ゆうちょ他	26億円	2018-	(投資期間)
	Biztechファンド	成長	伊藤忠、SMTB他	31億円	2019-	(投資期間)
	バイアウト2号ファンド	バイアウト	企画中	目標400～ 500億円	企画中	-
Spring REIT	Spring REIT	不動産	香港証券取引所上場	約560億円	2013-	1.1億円 (オープンエンド)
資産 投 資	グロース2号ファンド	成長	DBJ他	31億円	2013-	(投資期間)
	航空機リースファンド	CF	年金、信金、地銀他	約120億円	2018-	(投資期間)
	インフラウェアハウジング ファンド	CF	伊藤忠エネクス、 SMTB他	75億円	2020-	(投資期間)

(参考) 自己投資 ～資産・負債及び自己投資の構成～

- 20年12月末及び21年6月末における資産・負債構成、21年6月末における自己投資の構成は以下の通りです。

資産・負債構成		
億円	20/12末	21/6末
事業投資	17	25
Spring REIT	56	66
資産投資	29	41
営業投資有価証券/営業貸付金	103	132
現預金	29	22
営業未収入金	4	3
その他流動資産	5	5
投資有価証券	3	3
その他固定資産	8	6
①資産合計	151	171
事業投資	-	-
Spring REIT	10	9
資産投資	3	14
借入金	13	23
その他流動負債	6	6
その他固定負債	7	7
②負債合計	26	36
③純資産(①-②)	125	135

自己投資（営業投資有価証券/営業貸付金）構成





Mercuria Investment Group